THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年四月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第五十七號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

（女學叢誌）婚姻論（第一）●（中外新報）拾數件●（學藝一斑）年月の事●（手藝一斑）毛糸編物●（列女傳）小万の傳●（論說）女學生の心得（穗積陳重君の演述）〇仕來の事（矢田部良吉君演述）●（新作物語）閨の徹夜燈（第二）●（家政要報）赤砂糖をよくする法〇髮の艶をよくする法〇吳服夏物の景況●（御伽草）數學問題考物問題同解答數件●（寄書）伊勢物語の事〇筆のまゝ〇胎兒の男女を知る法●（英語獨修）ナショナルリードル直譯

女學叢誌

〇婚姻論　第一

余輩常に思へらく社會の改良とハ世の文明を圖るといふ事にて苟くも我が邦の文明國たらん事を望まば我が社會の改良を圖らずむばあらざるなり社會の改良を圖らんにハまづ家族の有樣を改めずむバあらざるなりと西洋の學者も嘗て曰く家族の有樣と社會の有樣とハ相伴ふて進むものなるが故に社會の有樣の武斷制度に基きたらば一家の有樣も亦之に隨ひ其主人たるものゝ妻子眷族を馭するにも亦專制を以てするものなりされども社會の有樣の進みゆきて殖産制度たらば一家の有樣もまた之に伴ふて改進せざると得ずといへり我が邦舊幕時代迄の社會の有樣を顧みる時ハ我々人民ハ國主地頭の專制する所にして之を殺すも活さんも其欲するがまゝならざるハなく扨て國主地頭も亦幕府專制の下にありて何事も武斷制度に依らざるハなかりしされば一家の有樣もまた之に伴ひ妻子眷族より奴僕に至るまで其主人たるものゝ專制を受けてたゞろの思ふがまゝに隨はざるを得ざりしなり明治の昭代となりてハ社會の有樣大に開けたるを以て一家の有樣もまた之に伴ふて大に改まる所なくむばあらざるべし一家の有樣の改まりてこそ眞正の社會の改良も行はるなれ爭で社會のゝ進み行きて一家の有樣の改たまらずて良かるべき而して家族の有樣を改めむにハ必ずまづ婚姻の有樣より改良を圖らずむばあらざるなり寔に婚姻ハ社會の基礎にして人倫の大本なり一身一家の幸福なるも不幸なるも一國一社會の盛んなるも衰ふるも人類開化の進むも退くも皆これ婚姻に基かざるハなし豈にこれを戒め之を愼まざるべけんや然ると世の人（前號にも論じたるが如く）さまでに之を重むせざるものゝ如かるハ余輩の甚だ怪しむ所なり抑も婚姻とハ男女兩性相結合して人間たる完全の身分となる事にて男女一たび相婚する時ハ男ハ良人たるの身分となり女ハ妻たるの身分となり男女同體となりて互ひに相輔け相補ひて一生の幸福を圖り子孫を益し社會と利する完全なる機關たるといふに外ならざるべしさらば夫婦の間に於

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て決して優劣尊卑の區別あるべからず然るに女子に男子同樣の敎育を授くべからずと論ずる者あるは余輩その何の心たるを知らざるなり女子たればとて男子同樣の敎育を受け男子同樣に世に立つ事を得てこそ始めて男女一體となり完全なる機關ともなる事を得べけれ若し夫婦の間に於て優劣尊卑の差違ありたらんには乃ち夫婦同體となりて完全の機關たることを得べからずこれを身體に譬ふれば乃ち不具者たり夫婦にして不具ものたらばいかで相輔け相補ふことを得べきいので一家の幸福を圖るべきいかで子孫の繁榮と望むべき家族の有樣にして斯くあらんには何を以て社會の改良を圖るべき何を以て世の文明を進むべきこれ余輩の婚姻論を草して讀者に質さんと欲する所以なり而してまゝに社會の改良といひ世の文明を進むるといふは社會の進化に隨ひて人類の幸福を增殖さんといふに外ならず苟くも社會進化の定則に從はずして事物の改良を圖らんと勉むるは恰も航海の術を知らずして太洋を航するに異ならずさりては啻にその目的を達し得られざるのみならず遂には覆沒の虞なきを保たざるべきなりされば婚姻の有樣を改良せんとするに於てもまたその進化の有樣を詳知するを以て必要とは思ふなり故に余輩はまづ諸大家の著書に就きて婚姻の沿革と取調べ古へより進化し來りたる既往の有樣を詳らかにして以て將來如何になり行くべきかを推知し然る後に我が邦婚姻の有樣を改良する方法につき思ふよしを述べて以て讀者の參考の一斑となさんと欲するなり

◎中外新報

○久宮薨去　昨年二月十日に御降誕ありし久宮靜子の御方(女官園祥子の御腹)は當一月以來慢性腦膜炎に罹らせられ一時御輕快のところ去月下旬以來再度御發病あひ〳〵御衰弱の御模樣ありしが去る四日午後十時廿分終に薨去遊ばされたり誠に恐れ入りたる御事なり右につき去る六日より三日間府下各公私立小學校に於て生徒の唱歌停止致すべき旨府廳より達せられたり

○ファンシー、ボール　伊藤伯爵及び夫人が會主となりて來る廿日芝高輪なる同伯の私邸に於て假裝踏舞を催さるゝ由なるが此假裝踏舞といふは近來歐洲に於ても大に流行するものにて思ひつきの趣向を競ふの踏舞會なりといへば當日の招待を受けられし方は定めて工夫中にて紳士にして樵夫船びと農夫漁者となるゝもあるべく或は貴婦人にして賤の女に出

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

立ち八瀬大原の黑木賣る女或ひハ蜑とならるゝもあるべく中にハ古代の武將勇婦に假裝し或ハ黑奴に出立るゝもあるべく極めて面白き夜會ならんとの事なり

○高等師範學校　に於てハ去る一日森文部大臣以下臨場ありて初等中學科生徒女子小學師範學科生徒の卒業証書授與式を行もれたるがその中女生徒の姓名ハ多羅間シン(山口縣)遠山クニ(岐阜縣)伊東イチ(茨城縣)日下ナカ(德島縣)淸岡ミツギ(高知)頓野キヨ(山口縣)松田トキ(宮城縣)波佐谷ミチ(北海道)時岡クメ(山形縣)岡崎チリノ(山口)多田サク(高知)近藤イチ(東京)三井ヨ子(愛媛)山內フキ(宮城)吉田トミ(三重)大野キク(熊本縣)以上十六名なり扨て祝詞及び謝辭ハ左の如し但し謝辭ハ女生徒の分のみを掲ぐ

山川高等師範學校長の祝詞

明治廿年四月一日諸君に卒業証書を授與す自今諸君が負擔すべき敎育上の事ハ業に既に習熟しけるを以て敢て贅言せず唯小成に安んずるなく學びて厭はず誨へて倦ず益々進みて令聲美績を發揚せん事を冀望す爰に一言を述べ以て祝意を表す

女子小學師範學科卒業生總代多羅間シンの謝辭

ことし明治廿年四月一日我高等師範學校の卒業式を行はれわらは等この式を受る榮譽と得たるハ御代の惠と我が學校長敎頭を始め 奉りわらは等を導かせ給ひつる御方々の深き御めぐみとによりてなりこの御めぐみに對しまたわらは等が榮譽に對し聊か思ふよしと申さんとすろれよき木の實をえんと思はゞよき種を蒔ざるべからずよき子を欲せばよき母とこそしなふべけれされば此母とならん人と養成しまた幼兒を敎へ導かせんにハ女にしくものなしとてさきに我女子師範學科を設けられ卒業せし人も多かりしかど日尙ほ淺くして其功の見えかぬる爲か或ハ人うたがひて女子の敎育ハ柔和の性をそこなふに至るなどいふも邊僻の地にハなほわりときくこの惑ひを解く事はわらは等が責ならずやわらは等ハ今より後到らん所都と鄙とを問ず內に婦德を修めて外少年子女を導き人にわれによき木の實を結ばせて世人の疑ひをはらしいよ〳〵女子敎育の捨りべからざるを知らしめんこと是より重く大なるハあらざるべしこれわらは等が深く厚き御めぐみに報い 奉らんとする 志 なり女子小學師範學科卒業生多維間シン謹しんで述ぶ

(本月二日の官報に據る)

○列美女學校　葡萄牙の人にてミッセス、レミデオスといへる婦人の發起にて築地小田原町三丁目十番地へ列美女學校

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

といふを設立し去る四日より開校せり校長ハ即ちレミデオス女よして教師ハ同氏の外にオーグスタス及びサビヌの両孃なり學科ハ裁縫、編物、刺繍、造花、讀書、算術、英學、習字、作文、蹈舞、ピヤノ等の十一科なるがレミデオス女ハ特に裁縫に上手との評判もある位ゐにて最早五十に近き年齢なるが故に事物の經驗よも富みたる人なれバ生徒を教導するにも至つて懇篤なりとの事また五月よりハ更に二名の歐洲婦人を増し專ら速成の英語學を教授せしむる筈なりと聞く

○共立女子職業學校　にてハ此程より造花を學び居れる生徒をして束髪用の花簪を製造せしむる事を始めたるに需用者殊の外多く昨今ハそれが爲非常に繁多なりとハ全く觀花の時節なるが故ならん歟といへり

○女工練習會　京橋區山下町なる同會にてハ今度都合により裁縫及び蹈舞の專任教師たりし葡萄牙人ミッセスレミデオ・ス及びアグスタの両婦人を解雇なしたるを以てその後任として更らよ英國人イムルコックと和蘭人ヘンリーヘウトの二婦人を教師に雇ひ入れたるよし

○東京女子裁縫傳習所　本郷區東竹町の渡邊辰五郎氏が發起にて今度同所へ題號の傳習所を設けたるが生徒入學の節ハ針の達者なるものを試驗し優等のものハ六ヶ月後より相當の給料を與ふる規則なりと聞く

○山師女學校　近ごろハ英學或ハ洋服裁縫等の女學校を設立するもの甚だ多きハ試に歡ばしき限りなれども其實情を探ると設立の廣告の立派なるにも似ず中にハ丸で廣告とハ反對のもの徃々わり世の令孃達の入學せんと思はるゝ方ハ前以てよく／＼その學校の組織など取り調べたる上よて入學し給へかしとすれ餘の事ならず新聞紙にハ外國婦人を聘したるとか又ハ何科を何ヶ月にて卒業せしむるとか廣告それども實際さる事なき學校もわりとの投書わりしが如何にや知らず

○東女連　改進新聞にさるものわりと聞えたる彩霞園柳香(雜賀今ハ廣岡豊太郎)氏の細君嘉鶴女史と同じく同新聞の山下晴雨氏の細君安子の兩女子が發起にて今度東女連といふ女の芝居見物連と組織せるが其方法ハ東京八座の芝居を何座にても上等土間にて一人前七十錢より九十錢までの間にて菓子辨當鮓繪本を與へて見物の出來る仕方にて娼妓と藝妓とハ入連するを許さずとの事なるが序での事に今少し改良したらんにハと思はるゝハ即ち芝居見物の節棧敷にて飲食をなす等の事を廢したし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○成立學舍女子部概則　本部は女學に須要なる學術を授くるを以て目的となし生徒は品行端正躰質健康にして小學中等科卒業のもの若くはこれに相當する學力を有するものたるべく修業年限を三ヶ年となし學科課程は(修身)第一年は禮式子たるものゝ心得坐作進退の心得姉妹たるの心得朋友親戚に對する心得第二年は禮式妻たるの心得舅姑に對するの心得、家主たるの心得、第三年は西洋禮式、母たるの心得、交際の心得、世に對する心得(和漢文)第一年は讀書作文習字地誌、第二年は讀書作文歴史詠歌、第三年は作文詠歌讀書歴史(英文學)第一年は讀書習字綴字譯讀書取諳誦、第二年は讀方譯讀會話歴史作文々典、第三年は譯讀作文會話歴史小説(理學)第一年は物理口授、算術、植物口授、第二年は地文學化學天文學算術第三年は動物學、金石、幾何、代數學、(心理學)は第二年より口授

(以下次號)

◎學藝一斑

○年月の事　(前號の續き)

日の事ゝ密接の關係を有するものは週間の事なり即ち七日を以て一週間となす事は猶太人より傳りたるとにて專ぱら耶蘇教國に於て行はるゝ所なり平年には一ヶ年に五十二週間と一日を剩し閏年には二日を剩す故に次ぎの年には同月同日に同じ週間と符合する事なけれども平年には一日を先んじ閏年には二日を先んずる事なり然れども各廿八年目毎には月また週間の日もともに同一となれり猶太人は週間の終の日を以て神聖なる休日となせしが耶蘇宗徒の中多くは最初の日を以て宗教上の日と定めたり週間内の各日に名を與へたるはサキソン人にして月の名は即ち羅馬人の唱へし所なり

(暦の事)　暦を書きたるは耶蘇紀元後第二世期にしてアレキサンドリヤのグリーキ人の始めたる事なり尤も此以前にも暦樣のものありしと見えポムペイにて發見したるものは大理石を四角となし其四方に三ヶ月づゝ書き記したり英國のオッスフォルドの文庫には現に千三百年の暦を保存せり同國にて初めて暦を出板せしは千四百九十七年なり　(完)

◎手藝一斑

○毛糸編物

煖手套の編方　マッフとは寒き時兩手をさし込て寒氣と防ぐ爲のものにして婦人の用ふるものなり爰に記載するはヲ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ッコの毛に似せて編むべきマッフなり
十九號の針二本を用ひ糸ハ捻合せにしてラッコの毛色に臍せるため四箇の色を取合すべし初めに薄き色を用ひ段々に濃き色の糸を用ひまた原の如く薄き色に歸りてあむべし
編方ハ編針に七十或ハ八十を編み掛け第一行第二行第三行ハ平編となし第四行ハ糸を前に進め、二つ一所に編みて裏面に取る、此行の終りまで斯のごとくあむべし
斯のごとく凡そ十八インチ(即ち曲尺にて一尺五寸餘り)の長さに至るまで第一行より第四行までを右に述べたる通りに操りかへし／＼あむべし尤も前に記るせる毛糸の色の都合よく揃ふやうにあみ決して色の揃はざる前に編み終るべからず
又一法にハ編針に四十五あミかけて各行とも同じ編方にあむべし即ち一つあみ、一つ繡ひ、また一つあみ、一つ繡ひ行の終りまで操返しあむべし
斯くて凡そ廿インチ(即ち曲尺一尺六寸七分餘り)の長さにあみ絹にて裏をつけ形容を保つために毛或ハ綿を入れラッコの毛色に似よりたる絹の打紐を縁に縫ひつけリボンを以て括るべし即ち至て美麗なるマッフとなるなり
この編ものに用ふる毛糸ハ獨逸の合せ糸といふものなり

◎列女傳

○歌妓小万の傳　(前號の續)

十年といふとしの春二月ばかりにや隼人の薩摩の國にあらましき風吹きたりて遠近さやめきわたり千里の外なる都の空も何となく騒がしう船ども日毎の樣にむきかひて西ざまに徃く人の今日も明日もと多るにつけてハ浪華の浦赤馬が關杯にハ商ひの利益もれほかたならずとて思立つも數多ありけり主人が常に親しうする浪華人も蘆のこの葉のなミに超たる其かたのさかし人なれバ屡消息して萬の准備おかぬ事なくせしなるべしはや整ひぬ疾々來ませとの音信あり此方にも然る事の折に觸れてハなど物語らぬにしもあらねどよもさる事やハ杯深くハ耳にも留めざりしからに今更のやうにて歎くと限りなし此度ハ十日二十日の程に歸らるべき心地もせねハ兩人に一人は連れゆかむを我ハ何をとも云ハじ能くかたらひ合せて夕つかた迄に返答聞かせよとて遽だしう出で行くを見送り果たる後ハ一處に集ひて如何かせましとぞ先づ語ふめる玉鬘のうち逃る中なりとも添ひ奉らむこそ本意にハかなへれよしやおどろ／＼しき管の響に假寐の夢を覺されぬとも引別れ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

參らせて殘り留らむよりハと猛くハ思ひなせど斯る時機だに我獨傍へ放れず仕へてしがなと思ハれむハ道にて道にさもいひあへず然らば最初より出たつ事ハ斷念て只み心の儘にともてはなれて殘る方に定めむのれほかたの旅ならませバ強ても行くべきに斯く物騒がしう恐しげなる事の聞ゆるからにさハ云ふらむと推測られむも亦遺憾など思ひかへせばしかすかに猶豫ハれていひきり難うあはれ今暫時かなたの事の鎮るを待たせ賜ふとハ叶ハぬにや侍らむ抔くり返しいふろよ其事ぞかし妾も一度引駐め參らせむのとハ心づかぬにしもあらねど虎栖む穴に入らでハとハ朝暮にのたまひ馴れたるに斯と思立賜へるを無下にいひくたさむハ餘りにミ心を知らぬ樣にてと躊躇れてなむ打出ず過しぬるなど果敢なきとゞも語らふ間に長き春の日も暮近くなりていとゞ心急ぎのせらるゝ程よ早う歸り來つゝ彼事ハ定めていづれにとか極めつらむなと問れて兩人ハ返答さへしあへぬと訝りつゝ扨ハまだ定めぬにや誰もく〳〵もゆかしと思ひ定めしならば強てハ云ハじ倘然もわらず困りわひてまだ何方とも定めずとならば神のミ心にまろ委せむずらめなど誠實だちて今携歸りつる草筐の口ひらきつゝ鼻紙とう出て何やらむ端にかいつけつゝ捻りていざと出すを急ぎて取らむも傍痛しさりとて後れむも心淺しとや見えむ抔互に手もわなゝかるゝばかりなると念じ返して只右左同じ樣に取て開き見ればハ内君のにハ見べきゝみとし賴まねバとあり此方にハ思ひ立ちぬる草枕なりとかきたり古歌の同じ上下を分たるなれど行も留るも此ひと言にて紛るべくもあらず然らバ疾准備へせよかしといはる實つき添參らするハ限なく嬉きものゝ殘り居て物思ひ賜ハむがいと傍ら痛う抔いへど斯く定れるうらハ爭ふべき事なしとて思ひきりたる氣色に此方も強てハ辭まず心ばかりの用意して其次の日の朝まだきに出立ちぬ別るゝ程の有樣思ひやるべし船路もいと平にて浪華の浦につきぬればかなたの人々悅び出迎へつゝ主人公とうちつれて先づ堂嶋の裏二町目といふよ宿と定めてくさ〴〵物語りも此次の日より主人ハ商ひの道にをちこち走り歩きて宿にハあらぬとの多ければ名ある處見めぐるとも得せねど出入る人の物いひ朝夕のことゞひ迄聞なれず耳とゞめふるゝ事の多かるなど毫もゝらさず背記し便につけつゝ内君のもとへ告おこせて徒然慰むるくさはひにもと心遣ひする程なれば況て主人公の起居につけて物語られしとなどハ努めて物するやうにするも隔てなき心の色の變らぬところを見え知れむとの用意なるべ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

し夏もくれ秋も半過ぎぬ彼の薩摩がたの浪の騷ぎもやうく靜りぬとか仄聞ゆれどこのごろ主人ハ長崎へとて出で行きたるほどにて一人殘り居る旅ゐの何となくこゝろ細きにわやにくそのかたよりの便も絶て聞えずこなたよりハ日毎よ消息していらへ待つほどの心もとなさハ漸く積りてかしらふ痛う惱ましさの增りゆきつゝ臥床をさへ出ぬばかりになりもてゆきぬ草引むすぶ旅寐にころあらね思ふ人に別れて獨ぬる袖のさらでもほしがたきに鴈もわたり虫も音にたてゝいとゞ催はし顏なる夕つかたこの宿の下婢のいろぎ走り來つゝたゞ今これもて參りぬとて出せると見れバ表書の名ハその人ながら手の異やうなるハいと怪しこれまでハ如

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

向ばかり事繁く遽だしきなかにも自ら物し賜ハで人してかゝせ賜ひし事ハ無りしになど訝りつゝ開き見れバ去し比よりふと惱み初賜ひしが醫師も容易ならぬ体にいへば此十日ばかりハ病院に入らせ賜ひぬ少しハれてたりざまに在する由彼方にハ申せど猶暫しハ出かてにぞ在ますらむ然れど此方に參り賜ハむとハ堅く止め賜へればゆめ／＼思立たせ賜ひそ聊かにても癒ざまにならせ賜ハゞ必ず其方に送り歸し參らせむを只待け賜へかしなど走り書たる懇なるやうなれど其人ならぬと思へバ目もとまらず斯る事あるゆゑにこそかき絶て音信ハなかりしなれ知らぬ人のミの境に惱臥し賜へるびむなさハ如何ばかりにやと我身のいたづきさへよそになして立つ居つ歎きたるさまハ物ぐるはしき迄なり　（未完）

◎論說

○女學生の心得　穗積陳重君　演述

去る頃高等女學校に於て穗積君の演說せられたると社友某氏が筆記して疾に本社へ寄せられたりしが餘紙なきが故その掲載を遲延せし中に東洋學藝雜誌にハ速記法を以て筆記したるを掲げたるにより茲にハ同雜誌の筆誌を掲ぐ

女學生諸君　私ハ箕作君の依囑により今日貴孃方に談話と致す順番に當りました依て私ハ方今我邦の女學生たらんものハ美麗　實用　即ち經濟と美術とを程よく調和し其割合を誤らざるの心懸けが肝要ぢやといふ事をお話申さうと思ひまする」扨てこの敎場のストーヴの中にハ石炭がポヤ／＼と燃えて居りますまた貴婦人方の指環にハダイヤモンドがキラキラと輝いて居りますさて其石炭と申す品物ハ風致もなくまた雅趣もなき石コロの如きものにて至て見苦しき品物でございます或る田舍ものがこれと黒坊のシヤボンかと問ひましたも強ち無理ならぬ事と思はれます又彼のダイヤモンドと申す寶石ハ誠に美しき品物にて或ハ夜會の電氣燈に五色の光彩を放ち或ハ朝賀の貴婦人の禮服に映じ昔の支那人が十五城に換へんといひしも實に尤もの事と思はれる位でございます石炭とダイヤモンドハ其外面より觀る時ハ箇程に違ふものにて俚諺にいふお月樣と鼈とハこの事でありませう然ながら化學者に聞て見まするとこの二品ハ外見こそ箇程な相違あれその實ハ同じ物にて兩ながら炭素とか申す元素より成立ものぢやと申します」依て私が考へまするにダイヤモンドハ實に寶石の王とも稱すべきものにて裝飾にとりてハ之に超すものハあ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りますまひ又石炭ハ蒸滊船、蒸滊車、瓦斯燈を始めとし機械の運轉、家屋の温煖、其他百般の有益の事業にてハ一日も欠くべからざるものにして鑛物で文明の先導者となりたるものゝ中にてハ鐵と肩を並べ一といふて二と下らぬ品物なりと思はれます然らバ同じ炭素より出來たるダイヤモンドハ美麗の名代人にして石炭ハ實用の名代人とも申すべきものでありませう
私ハ今日文明の教育を受る婦人方ハ右の炭素の如くあらん事を希望いたします尤も私ハ貴孃方を眞黒に仕たいと望むのではありません終りまでお聞になりますとその意味が判然といたします」方今我が邦にて婦女の位地の進歩を圖りまするものどもに二つの流義があります其一派ハ專ら婦女天賦の美質を磨き婦人の風采嗜好を高尚にする事を勉むる流義にしての流義によれば詩歌文章ハ論を竢たずピヤノやバイオリンや入てハ英佛獨逸の國語出てハ舞踏晩餐音樂會セントジエームスの朝廷に出るも恥かしからず巴里の夜會に臨むも時めくがごとき婦人が生ずるに至るやも圖られません」又一方にありてハ專ら實用を尙び婦人ハこれまでの樣な無智無用の人間でハ仕方がないからなんでも婦人にハ直接に世の中の利益になる事を教へこみ有用なる人間にせざるべからずとし裁縫も教ふべし料理法も知らねばならぬ毛糸の編物も達者になるべしと總て婦人天賦の特性を利用して之を實益に充んとする流義がありまする第一派ハ即ち美術主義の教育を主とし外形より入りて漸々に女子の智識を進めんとするものにして之をダイヤモンド派とも稱すべきものですまた第二派ハ即ち實利主義の教育を主とし女子に實業を授け之により漸く其位地を進めんとするものにして之を石炭派ともいふべきものです私ハ今日の女學生たるものハ右の一派にのみ偏して敢て他を顧みざるハ甚だ宜しくなき事にてこの二者をうまく調合するのが必要ぢやと思ひますなぜと申せば美術主義の教育により婦人を社會の飾りものゝ如く見なし夜會踏舞場に曝しおくばかりでも面白くありませぬまた實利主義に偏し婦人を男子の使役物の如く心得て臺所に追ひこみおくばかりでも隨分困りまする然らば美と用との割合ハどれ程ならば宜しきやと申せば之ハその人々の身分によりて幾分か調合加減を斟酌せねばなりませんなれども概して之といへば「美ハ多きを要せず用ハ多からざるべからず」と申したうございます彼のダイヤモンドをご覽なさい若しダイヤモンドが世の中に澤山あつて學校の歸り道にコロ〳〵と轉び居るやうならばとても今の樣に珍

二百十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

重さるゝ氣遣ひはありません又石炭が亞弗利加の河の中にて時々豆粒程のを見出す樣ではとても用には立ちません左れば一般に申せば實用の心得は美術の心得よりは割合多くなくては叶はぬ事と思はれます　（以下次號）

○仕來の事（前號の續き）　矢田部良吉君演述

近頃西洋風の舞踏會がはやり出しまして自分が仕た事もなくして之を惡さまにいふ人もありますが私は西洋流の舞踏は決して惡いものではないと存じます此の舞踏について西洋には惡しき習慣がありまして夜明して踊る杯の事も其一つにて是は健康のためにも甚だ惡い事ですが日本にはまだ左樣な弊はないやうです　私は舞踏に伴ふ所の惡弊は固より好みませんが舞踏はよい事と心得て居ります　私の試驗によつて見るに舞踏は婦人方の爲には甚だよろしい運動です又是まで男子とは勿論相互ひの間にも交際の少かッた婦人方が舞踏會のある爲に面白い樂しい交際を始めてより人と對話する事も易く工合よく出來るやうになり又人の前に出る時はぢかんで可笑な振舞をなす事もなくなる樣になりましたと思ひます又男子は餘程以前より洋服を着て居りましたが婦人は近頃まで洋服を用ひなかッたが舞踏を試みる婦人方は逸早く洋服を着る樣になりました之も甚だ宜しい事と思ひます全体日本の女服はよい所も中々ありますが步行ろの他運動には甚だ不便なもので且つその外にも不都合な所がありますのでいつか之を止めるとか改良するとかせねばならないと世人がいひますがなまじいゝ之を改良するとも中々充分な事は出來ますまい矢張男子の樣に西洋服を用ふる方が餘程宜しうございます又蹈舞は西洋にては交際上の一つの道具になッて居ります夜會杯にて男女の多く打交りまする時は舞蹈の催はしのあるもの故日本が万事西洋風となりまするは止めやうとしても止るものではございませんから交際の仕方も追々西洋風となるのは勿論ゆゑ今の若い婦人方は之を多少お心得なさる方がよろしいと思ひます又蹈舞は體の形とよくいたします是まで日本の婦人はなるたけ胸と腰とを屈めて小足にチョコ〳〵と步く事と勉めた樣に見えますが舞蹈を始めた婦人方は體を眞直にしてしッかりと步く樣になりました又蹈舞は西洋流の音樂によつて運動するもの故樂みの多きものです人間には樂みと申すものは必要でスからこの點より見るも蹈舞はよろしいものでス斯樣に舞蹈は宜いものですが若い婦人方が無暗に舞蹈會にもかれては宜くありますまい若し舞蹈會に行くならば共集會する人は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如何いふ種類の人なるやを能く聞き定めて慥かなる人のみ來るといふ事が分ッたなら行ッてもよろしいと思ひます且つまた夜分なれば別して慥かなる人と同道する事が必要でございます男子と申すものハ少し位悪い評判を受けましても取り返しの出來るものですが婦人方が一たび悪い評判を受けますると一生取返しの出來ぬものですから交際上にハ注意の上にも注意しなければなりません又男女に係らず世の中にハ人の悪いものがありまして並はづれた事をする婦人と見ると其前でハ感心だのえらいだのと云ッて譽めますが後へ廻ッて舌を出して居るものも往々ありますから婦人方ハ注意しなければなりません舞踏會抔にてハ別ても西洋の行儀作法即ち仕來を心得て居る事が大切でございます西洋にても婦人社會にてハ仕來のやかましいもので淑女たるものハ上品の集會でなければ足を踏み入れてハあらぬとか夜分の集會にハ必ず慥としたる人と同道するとかいふ事の類が色々ありまして此邊の事に就て細かな事ハ當學校に教師がある事なれば今私が申し述べずとも宜い事です且又私ハ婦人社會の仕來の事ハ日本西洋を論ぜず不案内ですからあなた方に向ッて申し述べます事ハ出來ません(以下次號)

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第一篇　　南翠外史

第二　活人畫のはなし附赤十字會社の事

物ハ必要より生ずるものなりとハ誠に千古の確言にして彼の慈母お禰美ハ何とかして最愛のお覺を完美の婦人温良の淑女に感化して父が末期に遺し與へし多くの貨財を所理せしめんと思へる心の切なるより去る屋敷町へ移轉てのちハ八十の手習と言ばいへ我れハ育兒の必要より感覺と起し來りしぞと言はぬばかりの面色にて我が子が學校通ひする暇にハ近き邊の甲某といへる學士に就きて和漢洋の物學びする中にも古へより今に至るまで名ある婦人の嘉言善行にハ取分けて耳かたふけ心を籠めて恭聽したりし程にさても上達しけるかもお覺が十三の春にハ適ばれ智識高き貴婦人となれりける

然る程に慈母お禰美か移轉たる邊ハ孰れも門札の頭に綾に畏こき位を記せる門構への家居のみにして以前住居せし肆とハ日を同うして言ふべくもあらず相交はれる人といへども束髪洋服のレデーのみ多くお覺が幼立ちの遊び伽の如きハ求めんとそれども得るに易からず誠に鞠育の好地なりと思ひきやお

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

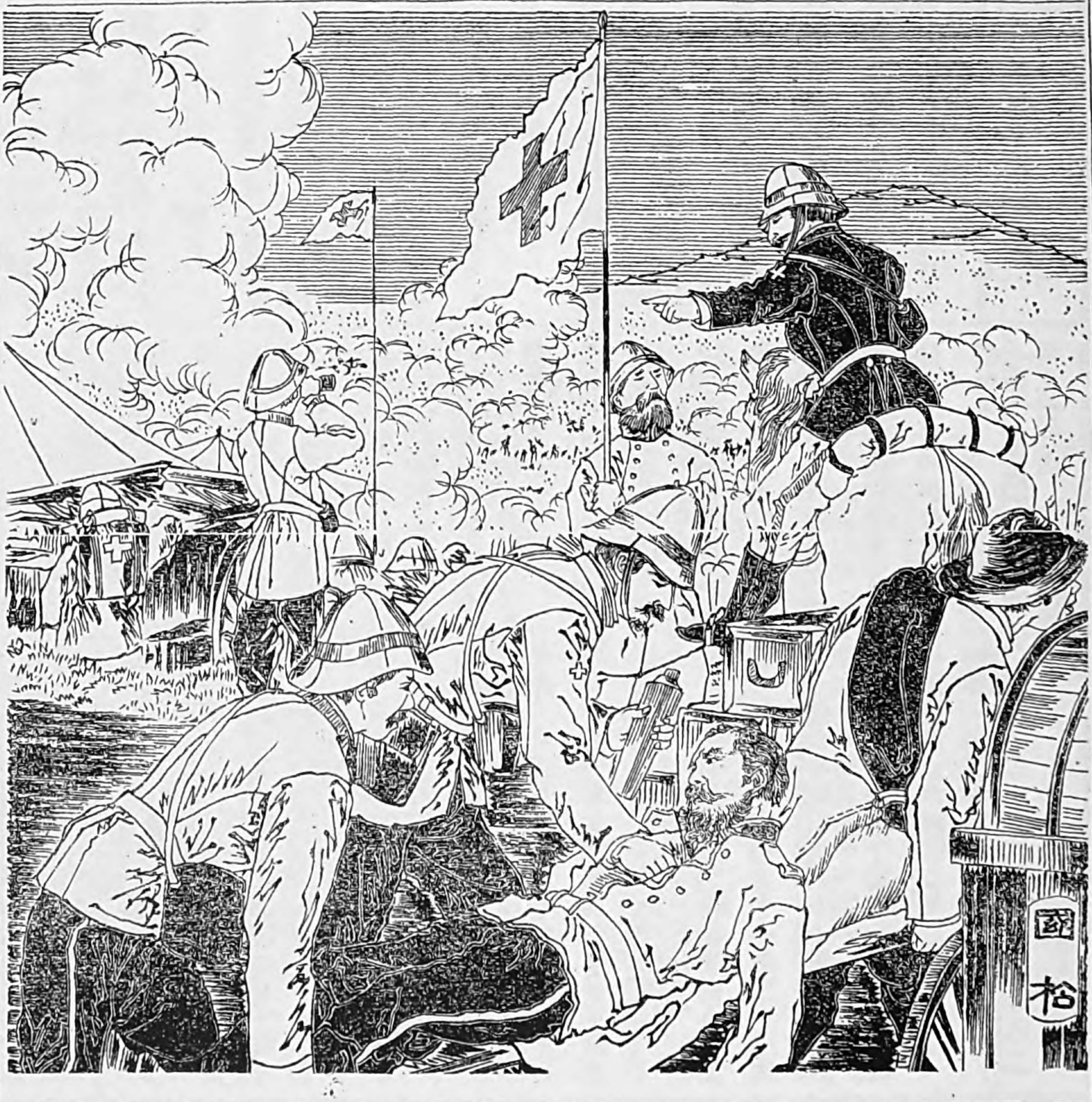
覺は淺ましくも猶ほ荒々しき心を悛ためず朱には染り易きが一般の人情なればとて多數の白きものは少なき赤を和すべきに然はあらずして隣家の貴女もお覺と交らひてより兎角に優美の心を失ひて一般に殺風景になりつとて母人の遠慮よりお覺と交むりを絶たしめ向ふの令孃は性質多病にてありけるがお覺が活潑なる羽引草には宿積の病ひも忽ち消散して今は却つて頑健に窘ましむるとぞ聞えぬる勢ひ既に此の如くなればお覺には誠に友達の緣遠く今は殆どねぶ一丁除け物の部類に入り學校より歸るや否や書物を玄關より投り込みてガタ〳〵と駈出せども友なき身の哀しさは詞を交す人もなく偶ま之れあるのと思へば隣邸の馬丁車夫なんどの戲れを言ひかくるにてぞありける然ども母が氣にては只顧に父なし子よとて侮蔑さるゝならんと思ひ居けるが一日無き良人の菩提を訪はゞやとて夫れが祥月命日に丁る前の日お覺をも伴ひて香華院へ詣て草を拂ひ碑を淨め花を立てかへて水を湛ゆる折お覺が影を見失なひぬ何地往きけんと頸を伸ばして人ある方を見ゆればお覺は青柳の元を徘徊せる雨蟇を發見して二たび三たび石を以て投打ちを試みたれども蟇は巧みに之れを脱れて孰れも空矢となりければ這たびは大いに奮はりて手ごろの石を右手に翳し左手を伸しく欺き寄り今飛んとする足を押へて無慘にも一命と石下に隕さんとする体なればあはやとばかり駈寄りてお覺が右手を聢と捕へ母は座に聲を曇らして「コレお覺やお前もモウ七ッ八ッの小供ではなし十三といへば女は男の十七八改めて言ずとも少しは物の分別も就きさうなもの今日を幾日とお思ひだ平常でも生物の命を取るさへあるに今日はお前の阿父さんのお逮夜ではあるまいか場所もあらうよ御尊骸のお在なさるお墓で夫れは何といふ所業ですサァ〳〵蟇を助けて遣て阿父さんにお詫となさい何たら世話の燒けたねんねェだらうねェ」と石を捻取り首を持て父が石碑の前へ九拜をさせる慈母が心よりさせらるゝお覺が不平は抑も如何ばかりにて有りつらん色より外に見るものもあらざりし

ア、如何なれば斯はあら〳〵しき心根には成りけるよ斯れとても養育はせざりしものを婦人たらんものは慈悲深きをこそ貴としとはすれ男子すらも今の代には好んでせざる戲れを女子の身として心に面白しとする我が子の氣は何神よりや承繼ぎけんとお福美が感慨胸に溢れてさても過去り給ひし我が夫の今しばし壽さの長へならんにはと返らぬ事まで繰返してありつるが切て慈善の心を導かんには物事のあはれを見する

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

より外はあらじと思立ち夫れより傳手を求め黄金を散じて養育院福田會慈惠醫院など見せけれども左までに感覺の生じゝとも思はれず時しも工科大學の中堂に於て歐洲活人畫の催しあり當日の収入は皆な我が赤十字社即ち博愛社へ寄附すると聴えしかばお福美は一夜お覺を伴ひて貴き切符を買求め數番の活人畫を見物したり

目に美しき物は能く無情の人の心と動かすものなれば然しもに荒々しきお覺も此の畫面の美しさゝ思はず見惚てありけるが我が家へ歸ると其のまゝに母が膝下に身を寄せて「阿母さん今夜の畫は皆な美事でございましたがお芝居と違つて人が動きもせず口も听ませんゝのら更ばり譯が解りませんが一体那



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れハ何をする處でございます」と問出るにお福美ハ最と笑し氣よ是れ等の筋を口に任せて語り出さんとハ思ひしが待よ待て活人畫を行ひたる趣意より語れば猶更に慈善の心を喚起そ事あらんかとて「お覺やお前ハ今夜見た畫の話しが聞きたいか那れハ芝居や舞踏とハ違つて所作をするのでもなく演詞を言ふのでもない皆な名ある人達が那あいふ風俗をして畫の中の人よ成て見せるので縱令短い間でも息も出來ず瞬たきも出來ずヂッとして居なければ成らぬのだが何故夫な辛抱をして人に見せるかと言ふのに是れハ唯の樂しみでハありませんぞ自分の爲に金儲けをするのでハありませんぞ自分ハ人を樂しませる爲に活た人間が畫に成つて見せ又見る人ハ其の人の企てを助けて銘々慈善といふ事をする心で高い切符を買つて其所へ金を集めるのハ赤十字社といつて戰爭のあつた時にハ敵味方の別もなしに療治をして此の人間の本分を盡さうといふ會社の資本にするのでございます此の慈善社を赤十字社といふのハ歐羅巴の大陸にお前も知てお出だらう佛蘭西と日耳曼との間に瑞西國といふ小さな國がある其處の國旗が赤地に白の十字を附ける處から此國の譽れの爲めに夫れを反對にして白地に赤の十字を標章にしたのらでございます　（未完）

◎家政要報

◎赤砂糖の品質をよくする法　赤砂糖の品質よからざるもの五斤へ小麥粉一斤を雜ゆる時ハ六斤の砂糖を得るこれたゞにその量を多くするが爲のみにハあらず色と品質とを一割方よくするの法なり（家政全書）

◎髮の毛の艶をよくする法　鉛糖一ダラクム乳硫二ダラクム薔薇水四オンスグリスリン一オンスをよく雜合して髮毛につける時ハ艶をよくする事奇妙なり（同上）

◎呉服夏物の景況　ハ昨年の今頃に比ぶれば景氣よき方にて足利白無地シボ、納戸縞、シボ白カスリ等ハ三十錢より四十貳錢飛切五十錢迄カスリ廿八錢より三十八錢阿波縮の白カスリ同白霞同納戸縞物の類三十錢より五十錢内外關東縮み一圓拾七錢より上等二圓十六錢紺シボ六十六錢より一圓三十三錢絹玉川六十六錢より一圓三十錢有松絞山繭入り上等一圓三四十錢紺地絞養老などハ九十錢より一圓位下等地白ハ六十錢內外なりとの事今夏ハ地白中形の染立が流行る見込のよし

◎白米　ハ（一等米）一圓に一斗三升八合（二等米）一斗四升七合（三等米）一斗五升二合（四等米）一斗六升五合（五等米）一斗七升三合

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○數學問題(答ハ本月中)

或人若干米を有す然るにその五分の二を去りまた百俵を賣れり因て二分の一より廿五俵多く殘せりといふ原俵の數如何と問ふ(伊勢内田富次郎君出題)

○考へもの〻題(同上)

(甲)左の詩ハ本邦の歷史中誰と詠せしや(岡山秋喋園主出題)

一道ノ封章不レ肯通ル。維城ノ功業竟ニ爲レ空。山門曾テ脫ス經函ノ禍。却テ落ツ婦人簪舌ノ中。

(乙)左の歌ハ何の草花を詠じ込たるや(南勢田邊榮資)

小倉山峯たちならしなく鹿のへにけむとしをしる人ぞなき

前々號數學問題の答

$\frac{2}{3},\frac{3}{5},\frac{5}{7}=\frac{70}{105},\frac{63}{105},\frac{75}{105}$ 故に $\frac{5}{7},\frac{2}{3},\frac{3}{5}$ なり

(答者)東京中村かね子、飯田龍、吉田天通、攝津伊丹牛谷美子、淡路仁井万平、

○前々號考へもの〻答

常磐女(答者)東京中村かな子、宮本なで、橫濱K. M. 京都田邊勝之、備前石生、

◎寄書

○伊勢物語ハ詞花言葉のみを事とせざる說

小石川　ろく子

この物語の詞短くして趣きの長き事ハ既く定家卿も歌よまむ人ハ古今和歌集に次きて翫ふべき書なりといはれたりされバ世人もこよなくめではやし先師達の之を註釋せられしものも甚た多しされど多くハ徒らに詞花言葉の雅なるを愛つるに止まりて深意の潛める處またその事實の國史を補ふに足るものあるに至りてハ之を看破りしものいと稀れあり作者もいかに夜の錦の心地しつらん今その深意のある所と事實の國史を補ふに足る事とをいはんにハまづ此物語の作者并にその時の勢を論ぜざるべからず

この物語の作者ハ古來種々說あめれどまづ清輔朝臣の袋草紙に伊勢物語、和歌二百五十首、業平朝臣ノ所レ作也、偏非ニ彼人作ノ歌耳ニ、古今ノ間ノ歌有レ之、與書載スル歟、又不レ論ニ自他ニ、隨レ便同人ノ歌ノ樣ニ書ニ列之ヲ、若是密事令レ混之故歟云々といはれたるを始めとして定家卿ハ其奥書にたゞいぶかしとのみ記して何人の記とも定められず平田篤胤古史本辭經ハもと業平朝臣のおもふ旨ありて自記せられし歌集よて在五中將物語といひしものなると後人の他事をもとり交へて斯く名つけしものならんといはれたりその他細川幽齋伊勢物語闕疑抄伴信友假字本末富士谷御杖北邊隨筆加納諸平伊勢物語論高田與清十六夜日記殘月抄野々口隆正在五中將日記復古解海量法師等その說ほゞ同じくして皆業平朝臣の自記せるものならんといへるハ實にさる事なりさるを春滿伊勢物語童子問眞淵伊勢物語古意

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハこの物語中業平と同時の人またろれより後なる天曆の比の人の歌さへ入れたりはた二條の后の事などあるハ彼の陽成上皇ハ天曆のはじめまでおはしまさんに御母后の密事をあらはならでも文につくりいでん事あるべからずこの書と以て業平の自記とするハ本を極めざる未だしき說なりといはれたれど既く大鏡にも二條の后をつれまゐらせて業平が奈良へもさかくれしと堀河大臣國經卿のとりかへしに來り給ふよし見えたり且つ時代の差違あるハ作者のあたし事と加へてあらぬさまに書きなしたるにてそあらめ又二條の后に通はれたる事をいみじき罪に誰もたれもいへど其代のさまを知らぬ惑にてあらぬ強說なり實に今の世などにてこそさる事あらむにハいみじき事なれ男女の道いたくみだりがはしき當時なるがうへに入內し玉はぬ凡人にてさへおはする程の事なれバ何ばかりの事にかあらん又斯く密事などとはのめかしさだかなる事をもあらぬさまに書きなしたるなどこそ物語書の体なれ若し斯る事だにものせずバ如何なる書をか物語といはん但し業平朝臣と二條の后と密通の事あるによりて陽成天皇ハ實ハ業平の子なりなどいふ妄說ハ年代をも考へざる非說なる事ハ土肥經平春湊浪話の國史に照して具らに弁られたるが如しされバ業平朝臣の自記ならずといふ說ハ立まじけれどいよゝ妾が說を確にせんために猶ほ次號に一二の徵を擧て世評を乞はんとす

○筆のまゝ　岡山　柳や　かはる

人の世に處する愛敬なかるべからず一日愛敬なければ世人に捐てられその憎みを受け一家常に風波の中に浮沈して和樂を得る事なし殊に婦人ハ愛敬圓滿ならざれば片時も世に立つべからず一家の幸福ハ申すに及ばず世間の交際總て愛敬によらざれバ能はざるなり池田光政と申す國主ハ世に新太郎少將とて熊澤了介を用ひ大に國政に心を勞せられたるハ人の知る所なるが侯が嘗て愛敬といへる事につき書付け玉ひしといへるを見るに左の如くあり

愛敬とハ人あひやはらかにうや〳〵しく謙遜なる心をいふまたけんどん邪見なる心生ずれば右の愛敬の德おはひ隱れてかほばせ起居ふるまひに至るまでするどに賢しくたとへば今まで海上いう〳〵として穩やかなるも俄かに難風起つて船を害ふが如しされバ此邪心にあたる人心を損はずといふ事なく事やぶれずといふ事なし此德だにあれば心靜かにして長閑なる春陽の氣と見るが如し此心より一切の万事を執行なせば人和せずといふ事なく事ならずといふ事なし行ひとして義にあたるところきけ

辰の八月五日の夜妙達彼參書き送りし下書なり

この妙達といへるハ始め角南といひし老女中なりといへり近來我が國の女性達ハ大に學事に心を委ねられ男の子もおさおさ及バぬ方あり西洋の婦人にも劣り玉はぬべう思へるものから兎角世間の交際圓滑ならず西洋の婦人に比して何となく歩と讓らねばならぬ樣見受けらるゝハ何故ぞや世間の交際に慣れ玉はぬ故なるは固よりたゝ讀書にのみ心を用ひ彼の女性に最も欠ぐべからざる愛敬の心の自づから西洋婦人に比して少き故と思はる女性の務めハ甚だ多し唯書よむばかりにてハあらず家政の事育兒の事交際の事皆これ婦人の重に任じ玉ふべき事なり然れば交際なり育兒なりろの他總て愛敬の心深から

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

されバたゞに其の目的を達し能ハさるのみならず中々に甚だしき害を生ずる事あり愛敬の心や寔に尊し會ま池田侯の書を見て感あり乃ち寫して叢誌の餘白を借る事とハなりぬ

○胎兒の男女を知る法　　東京　筒井　痴老

貴舍叢誌第五十六號中外新報と題せる欄内に男女懷妊自在法といふを掲げられたるにつき嘗て痴老の妻が一子を胎める時に溯りて彼の圖に合せ見たるに果してよく當れり蓋し偶中にやと思ひ他家につき同じく懷妊中に溯りて見たるに是れもよく當れり盡く然るや否ハ知らざれとも其結果を報ずるに當り痴老もまた左の事と報じて世間の經驗に供へんと欲す是ハ痴老が職そる理齋隨筆に出でゝるなり今ろの儘を左に出す

或る人申しけるハはらみ女の男子か女子かを知る俗傳に婦人の年と夫の年との數を合せて三つに割り不盡なるハ極めて男子なり割り切れるハ女子なり産月年を超ゆれバ一つをその數の中に加へ入れて三つに除するなり此事十に八九ハ違ひなし

とあり痴老も友人と共に両三度驗しみゝる事ありしが是もよく當れりと思へり

右のごとき法を知りたりとて何の益もあらず胎兒の男女ハ生るれば即ち知らるゝものなりさても人力を以て胎兒を男となし女となし得る法方なりせばいと便利なれども既に男女ハ自づと定まりたるを人力を以て如何ともすべからず然れども始めて懷妊せる家など或ハ男子のみ産れて女子一人欲しゝとか女子のみにて男子欲しゝとか望める家などにてハその前に之を占ひ男にや或ハ女にやと出産を待ちてろの當否を試るもまた睦まじき家内の一興を催はす爲にハよろしと思はる

◎英語獨修

○ニユー、ナショナル、リードル直譯

〔第十一節〕㊀小供ガ㊁大なる㊂獨樂ヲ㊃持つ●㊀㊁㊂廻せ〳〵●㊀如何に㊁彼ガ㊂夫ヲ㊃使て㊄廻さ㊅令る㊆かヲ㊇見ヨ●㊀汝ハ㊁獨樂ヲ㊂廻し㊃能ふ（か）●㊀然り㊁私ハ㊂獨樂ヲ㊃廻し㊄能ふ●㊀小供ガ㊁大なる㊂獨樂ヲ㊃好む

〔第十二節復習〕㊀小供㊁而て㊂彼の㊃犬ハ㊄速に㊅走り㊆能ふ●㊀汝ハ㊁走る㊂彼等ヲ㊃見㊄爲す（か）●㊀犬ハ㊁小供ノ㊂㊃如く㊄速に㊅走り㊆能ふ（か）●㊀然り㊁彼ハ㊂能ふ

NEW NATIONAL FIRST READER.

Lesson XI.

ゼ　ボーイ　ハズ　エ　ビッグ　トップ
The boy has a big top.
㊀ ㊂ ㊃ ㊁

スピン　スピン　スピン
Spin ! Spin ! Spin !
㊀ ㊁ ㊂

シー　ハウ　ヒー　メーキス　イト　スピン
See how he makes it spin !
㊇ ㊀㊆㊁ ㊃㊅ ㊂ ㊄

ケン　ユー　スピン　エ　トップ
Can you spin a top ?
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

ヤース　アイ　ケン　スピン　エ　トップ
Yes, I can spin a top.
㊀ ㊀ ㊄ ㊃ ㊂

エ　ボーイ　ライキス　エ　ビッグ　トップ
A boy likes a big top.
㊀ ㊃ ㊁ ㊂

Lesson XII. Reading review.

1.

ゼ　ボーイ　エンド　ヒズ　ドッグ　ケン　ラン　ファスト
The boy and his dog can run fast.
㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊆ ㊅ ㊄

ヅー　ユー　シー　ゼム　ラン
Do yon see them run ?
㊄ ㊀ ㊃ ㊂ ㊁

ケン　ゼ　ドッグ　ラン　アズ
Can the dog run as
㊆ ㊀ ㊅ ㊃

ファスト　アズ　ゼ　ボーイ
fast as the boy ?
㊄ ㊂ ㊁

ヤース　ヒー　ケン
Yes, he can.
㊀ ㊁ ㊂

二百十九

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

●かなのくわい廣告

●かなのくわいの趣意ハ我國の學問の道を容易くし世の便利を計らんが爲に総て假名のミにて文章を記すことを世ヨ擴むるにあり●誰にても此會に入らんと思ふ人ハ其國所と姓名を假名にて記し（傍らに漢字を添へて）言ひ込むべし會にて之を許そときハ會員證を送る可し此會に入りたる人ハ會の費用を資くる爲に次の四通りの内何れにても其人の隨意にて出さるべし

○第一類　一度限金拾五圓以上隨意
○第二類　毎月金三拾錢
○第三類　毎月金拾錢
○第四類　一度限金五錢以上隨意

（此四類ノ區別ハ別ニ仔細アルニアラズ志ハ厚クトモ其人々ノ都合モアルベケレバ其隨意ニトテ立テタルナリ）

但し第二類三類の會費ハ三箇月分又ハ六箇月分を一纏めにして前納にせらるべし又遠き所の人ハ郵便切手（一錢の）にて送り越すとも差支なし

●第一類第二類第三類の會費を納むる人々にハかなのてかゞみといふ雜誌を進呈すべし

東京麹町有樂町三丁目二番地

かなのくわい

竹内廣業君選輯　奥野昌綱君序文　安川亨君校閲

●馬太傳註解全

洋綴平假各附紙數三百九十三ページ定價五十錢

此書はスミス氏バーンス氏アルフチールド氏及びブラウン氏の諸原著を折衷し務めて讀者をして會得し易からしめん事を圖る故に通俗の詞を以て一字一節たりとも漏す事なく悉く説明を附したる一大良書にして實に福音の眞理を探究すの津筏と謂ふべし江湖諸君冀くハ賣切れさる中に陸續御購求あらんことを

東京銀座三丁目

十字屋

●小學教文雜誌

毎月二回發行　十部前金三拾七錢

毎號定價金四錢　郵税一冊金壹錢

右ハ是迄連月三回發兌ノ處自今一層紙面ニ改良ヲ加ヘ連月二回續々印行可仕候此般附禀仕置候也

東京日本橋區馬喰町貳町目

石川教育書房内

興文社

○教報第十四號目錄

神道に關する官令○官廷錄事○神宮教院錄事○神道諸教錄事○論説（人の本分を誤る勿れ）（粗より精に入る）○雜報（皇后宮の御唱歌）（海防獻金に就て伊藤總理大臣の演説）（井伊道政の略傳）（淨土宗紛議の結果）其他數件○和歌詩文○寄書（田中賴庸先生をかすの説）○問答（荅言數件）

定價壹部前金三錢○府外遞送の分郵税壹錢ハ割引府外郵送の分ヨ限り廿部前金七十錢毎月三回發兌

發兌本局　東京麹町區有樂町三丁目

神宮教院内報道局

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ヨて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候●但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

績文舍

持主兼印刷人　松本義弘

編輯人　初鹿野錦五郎

大賣捌　東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂

同　神田區淡路町　同　巖々堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY